

## 令和6年度 事業報告「つながりを育む」

### I 法人年度報告

令和6年度は「つながり」を重視した実践が進んだ。ジョイント・ほっとでは、利用者ミーティング「トークタイム」を設け、日常的に意見や思いを共有する場づくりに取り組んだ。地域との連携も進み、販売やイベントを通じて交流が広がった。

一方で、利用者の平均年齢は54歳を超え、高齢化に伴う生活支援ニーズが増加。陽なたが訪問支援や介護サービスとの連携を進めているが、体制再編も課題である。また、体調が不安定な新規希望者の増加を受け、「自分のリズムでの生活づくり」や「ゆるやかな社会参加」を支える支援の重要性が高まっている。

拠点整備事業では、寺町の物件の借地権購入の可否を再検討しており、利用者の声を聞きながら将来に向けた基盤づくりを進めている。

### II 事務局

#### 1. 年度報告

- (1) 経理：訓練等給付費は令和5年度を下回った。相談支援給付費はわずかに増加した。
- (2) 令和6年度の報酬改定に対応した。
- (3) 人事・労務管理：経理業務の引き継ぎは未完了だったが、税理士法人との連携を開始し、負担軽減を図った。処遇改善加算の一本化に伴い給与規程等を見直し、職員の処遇改善に努めた。
- (4) 法人事務：評議員会及び理事会の運営事務を適正に遂行した。
- (5) 社会福祉充実計画に基づき、拠点整備事業に取り組んだ。

#### 2. 理事会、評議員会、評議員選任・解任委員会

- (1) 理事会：第1回（令和6年6月5日、令和5年度事業報告、令和5年度決算報告、設備等整備積立資産の計上、社会福祉充実計画、理事候補者の推薦、令和6年度第1回評議員会の日時及び場所並びに議題等）、第2回（令和7年3月5日、令和7年度事業計画、令和7年度予算、給与規程改定、経理規程改定、会計ソフト契約、令和6年度第2回評議員会の日時及び場所並びに議題等）
- (2) 評議員会：第1回（令和6年6月25日、令和5年度決算報告、社会福祉充実計画、理事の選任）、第2回（令和7年3月26日、令和7年度事業計画、令和7年度予算）
- (3) 評議員選任・解任委員会：評議員改選年度に当たらないため開催せず

#### 3. 監事監査（令和6年5月17日）

4. 指導監査（令和6年6月、京都市保健福祉局保健福祉部監査指導課による社会福祉法人役員等研修会及び指導監査等説明会 \*動画配信にて）、（令和6年10月、京都市保健福祉局保健福祉部監査指導課による障害福祉サービス事業者等集団指導 \*動画配信にて）

### III 就労継続支援B型事業所 ジョイント・ほっと

#### 1. 年度報告

令和6年度は2ヶ月に1度の「トークタイム」や地域イベントへの参加を通じ、対話と地域とのつながりを重視した。一方、高齢化や体力低下により通所が難しい利用者が増え、活動参加に差が生じた。店舗はインバウンド需要で来客が増えたが、業務負担も大きく、価格改定で一時的に調整を図った。今後は、利用者の役割確保や活動ペースの見直しに加え、無理のない支援体制の構築と、地域との関係性を活かした展開が求められる。

## 2. 利用者支援

### (1) 社会生活支援

#### ① 安心できる場所づくり

- ・ 例年通り 8、2 月に全員対象の個人面談を行った他、希望に応じて面談を随時行った。普段の仕事や生活を振り返るとともにニーズを聴き取り、個々の利用目的の整理に努めた。
- ・ 令和 6 年度は個人面談やトークタイムを通じ、利用者や家族の思いに丁寧に耳を傾け、生活課題やニーズの整理を進めた。きょうだいへの支援の引き継ぎや、高齢化による介護・医療面の支援調整も行った。
- ・ 健康不安への対応として体調管理や受診勧奨を実施し、必要に応じ送迎支援も行った。
- ・ 感染対策を継続する一方、医療費助成制度の拡充を求める運動にも参画し、一定の成果を得た。今後も安心して暮らせる地域づくりを進めていく。

#### ② 目標に向かって働ける場所づくり

- ・ 利用者の仕事上の不安や自信のなさに個別対応し、日々の様子は朝礼や日誌でスタッフ間で共有した。得意・苦手を踏まえた作業分担や、成長を促すかわりにも注力した。課題の伝え方には苦慮する場面もあったが、できたことは積極的に言葉にして伝えた。作業内容の見直しや可視化も行い、落ち着いた作業環境づくりを意識した。新たな利用者やスタッフの視点も活かし、改善を重ねる体制づくりを進めた。

#### ③ 研修

- ・ 必修研修：衛生研修（6 月）、避難訓練・防災研修（10 月）
- ・ 任意研修：接客研修・パントリー（ドリンク係）研修、すてき熟（5 月、1 月、3 月）
- ・ トークタイム（4 月、5 月、6 月、8 月、9 月、10 月、2 月）

#### ④ 余暇支援

- ・ ほっと・ヴォイス、パソコン同好会、他店見学、暑気払い、旅行会、忘年会、初詣・新年会、月曜レク（健康体操・料理教室）

#### ⑤ 一般就労支援

一般就労や A 型事業所への直接の支援はなかったが、見学や面談の支援を行った。

#### ⑥ 新規利用者受入

2 名が体験利用を行ったが、正式な利用には至っていない。

### (2) 働く場

#### ① 厨房

- ・ 利用者が主体的に調理に関われるよう、メニュー決めや食材調達、作業の可視化を進めた。
- ・ スタッフ間で日々の様子を共有し、目標や配慮点も確認した。
- ・ 作業スピードやスキルに差がある中で、シフトや作業の割り振りに課題が見られた。
- ・ 衛生管理では HACCP に基づき、清掃や声かけを徹底し、利用者の衛生意識の定着を図った。店内・トイレの消毒も継続し、衛生的な環境づくりに努めた。

#### ② 製菓

- ・ 作業の見える化や数値化により誰もが参加しやすい環境を整えたが、品質保持と個別対応のバランスに悩む場面もあった。
- ・ 新商品は会話の中から多くの意見を取り入れ開発した。
- ・ 体調確認を行い無理のない作業配分に努めたが、無理をしてしまう利用者への声かけに課題が残った。
- ・ HACCP 対応のマニュアルを整備したが、後半は意識の低下が見られ、継続的な確認が必要で

ある。

### ③ 事務・デザインユニット

- ▶ シフト時間の入力・日々の喫茶日報入力・工賃準備、ホームページ管理、メルマガ・広報誌関係の編集・入力、メニュー表・レシピ入力、アレルギー食品の項目整理、スパイス発送作業、厨房指示書の加筆修正
- ・ 各利用者が自分の仕事に責任を持ち、事務作業を通してエクセル等のスキルは着実に上がった。SNS への情報アップ、菓子の紹介等、発信内容に利用者のアイデアを多く取り入れた。

### ④ 渉外ユニット

販売・喫茶

- ・ 公的機関・医療機関・福祉事業所・企業で定期的に販売・納品した他、出張喫茶、外部販売、菓子委託販売、弁当納品、ほっとはあとバースデーケーキ納品を行った。

講演活動等への参加

- ・ 各大学や学会への講演の他、事業所見学者の案内説明等を行った。

### ⑤ 洗濯ユニット

- ・ 洗濯は利用者が一人で行うシフトであるが、本人の体調や洗濯物の量に応じて、部分的にスタッフが手伝った。

### ⑥ 清掃ユニット

- ・ 内部…寺町店店舗準備・店舗外の所内清掃・ふきん絞り・コミュニティーサロンふう準備
- ・ 外部（委託業務）…空也寺の本堂

### ⑦ サブワーク

- ・ 茶葉の小分け・箸帯作成・各種シール貼り（箸袋・弁当箱のふた・菓子袋・カレースパイス袋）・ポイントカード作成・領収書押印・布や紙の裁断・広報誌発送作業

### ⑧ チェックインアウト

- ・ 仕事内容：サブワークと同じ仕事の他、林万昌堂の栗の皮むき
- ・ 通常シフトに入るのは体調や状況的に困難な利用者が不定期で負担の少ない作業に取り組んだ。

### ⑨ カレースパイス調合・販売

- ・ カレーパウダー・ガラムマサラ・チャイ等のスパイス調合・販売
- ・ 「てってのスパイス屋さん」から業務委託を受け、カレースパイスの調合、ネットショップによる販売を行った。

### ⑩ 在宅就労

- ・ 店舗箸帯作成・他の事業所の利用者工賃封筒作成
- ・ 2名が取り組んだ。仕事の開始と終了時に連絡を取り合い、体調に合わせて作業できる環境を整えた。

## 3. 家族

「社会資源を活用しよう」をテーマとした。

- ・ 10/12 訪問看護に関する学習会
- ・ 家族通信おほほほを年 6 回発行した。

## 4. 地域との交流

開智学区民生児童委員会による宅配弁当（年 4 回）を請け負った。また、令和 5 年度に始まった下京区社会福祉協議会所属のボランティアグループとの交流も継続しており、親睦が深まっている。サロン

ふうを利用してハーブを使った地域向けのお茶会を令和7年度開始を目標に検討している。

## 5. 啓発、広報活動

- (1) 広報誌「てりてり」の発行（8月、1月約800部送付）
- (2) メルマガ発信（毎月初旬）
- (3) 学びのための学生ボランティア、ワーキング支援の社会人ボランティア受け入れ
- (4) 実習生受け入れ
- (5) イベントで利用者が体験発表をし、スタッフがスピーチをすることにより、啓発した。
- (6) ホームページで法人の事業を周知した。
- (7) 下京こころのふれあいネットワーク推進委員会に参画し、区内他団体と地域懇談会、広報紙発行、パネル・作品展等を行い、精神疾患・精神障害への理解を深める取り組みを行った。

## IV 相談支援事業所 陽なた

### 1. 年度報告

34名の利用者に対する福祉サービス等利用計画書、モニタリング報告書を作成した。

この1年は、契約終了や新規契約を含む複数のケースを通じて、支援の個別性や複雑性が改めて明らかになった。高齢化による健康問題や終末期支援、若年層のサービス定着の難しさ、介護と障害が重なる課題など、多様な背景に応じた柔軟な支援が求められている。また、本人の意思や生活環境の変化に丁寧に向き合いながら、医療・福祉・地域支援など複数機関との連携が不可欠であることも再認識された。加えて、移動や金銭管理、家事など生活全般に関わる支援へのニーズも高まっており、本人の不安や抵抗感に寄り添いつつ、早期からの体制整備と継続的な関係構築が重要となっている。

### 2. 活動

- (1) スタッフ4名が相談支援専門員として福祉サービス等利用計画、モニタリングを作成した。計画に基づき、個々の利用者が自身の生活に主体的に取り組むことを支援した。
- (2) 計画作成、モニタリングを行うにあたり、生活相談、家庭訪問等を行った。
- (3) 医療、行政、他の福祉サービス等との連携を強化した。
- (4) 社会福祉法の改正により、「重層的支援体制整備事業」が創設、下京区では新たな支援体制の構築を目指して「しもぎょう重層支援プレLab」が実施され参加した。

## V コミュニティーサロン ふう（京都市委託事業）

### 1. 年度報告

令和6年度から開所要件が変更され、年間の総開所時間が設定されたことで、ジョイント・ほっとの活動調整がしやすくなった。来所者からは日常の不安や悩みの相談が多く、サロンや電話を通じて気持ちの整理や安心につながる支援が行われた。新規見学もあり、居場所を求める声は多いが、継続利用には心理的・物理的なハードルもある。ひきこもり支援事業との連携は本年度は様子見となった。

### 2. 活動

- (1) (月)(火)(水)(木)(金)の14:30~19:30に開所した。開所要件を満たすよう時間の管理を適切に行った。
- (2) 1日あたり平均利用者数8.2名。年間延べ利用者数2001名。